



産卵するアオウミガメ
4年7月、奄美市(奄美海洋生物研究会提供)

奄美大島ウミガメ産卵

奄美大島での2024年のウミガメの産卵は計289回で、調査を始めた12年以降では23年に次ぐ少なさだったことが、民間研究者らでつくる奄美海洋生物研究会の調査で分かった。最も多かった12年の千回超から大幅に減っており、同研究会は調査継続と中長期的分析が必要としている。

過去2番目の少なさ

289昨年
回

調査によると、内訳はアカウミガメが23年より1回多い47回、アオウミガメも49回多い206回、種不明は36回だった。アカウミガメは13年の663回

ミガメが産卵した。子ガメがふ化した様子などは見られなかったという。同研究会は、環境省やNPO法人、地域住民が奄美大島の海岸で産卵した痕跡を調べるなどし、毎年公表している。興克樹会長は「東シナ海での混獲による生息数の減少、餌資源の減少による産卵頻度の低下などが原因と考えられるが、明確な因果関係は確認できていない」と話した。

2025年1月17日付20面

【問1】 奄美大島での 2024 年のウミガメの産卵は計何回でしたか。

ウミガメの産卵は計()回だった。過去2番目の少なさだった。

【問2】 2013 年の663回をピークに産卵回数の減少が見られるウミガメの名前は何ですか。

()

【問3】 瀬戸内町の加計呂麻島では、季節外れの2024年2月10日にアオウミガメが産卵しました。その後、どうなりましたか。

()が()した様子などは見られなかった。

【問4】 奄美海洋生物研究会の興克樹会長は、ウミガメの産卵の減少について、どのように考えていますか。

「()での混獲による()の減少、餌資源の減少による()頻度の低下などが原因と考えられるが、明確な因果関係は確認できていない」と話した。

【書きましょう】 この記事を読んだ感想を書きましょう。

むずかしい漢字とことば

奄美(あま・み) 産卵(さん・らん)

調査(ちょう・さ) 以降(い・こう) 超(ちょう) 大幅(おお・はば) 減(へ)って 継続(けい・ぞく) 分析(ぶん・せき) 内訳(うち・わけ)=品物などを種類ごとに分けたもの 減少傾向(げん・しょう・けい・こう) 水準(すい・じゅん)=比べるとき程度の程度、レベル 推移(すい・い)=ものごとのありさまが移り変わること 瀬戸内(せ・と・うち) 加計呂麻島(か・け・ろ・ま・じま) 環境省(かん・きょう・しょう) 地域(ち・いき) 痕跡(こん・せき)=何事かがあったあと 混獲(こん・かく)=漁業対象の魚種と一緒に、対象外の魚や生物を捕獲すること 餌資源(えさ・し・げん) 頻度(ひん・ど)=同じことが繰り返し起こる度合い 原因(げん・いん) 明確(めい・かく) 因果(いん・が)=ものごとの原因と結果 確認(かく・にん)

